

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和7年5月30日（金）
10時00分開会 14時59分閉会
- 2 会議場所 池田町保健センター
町民活動支援ルームROCOCO2号店（マックスバリュ池田店2階内）
清水町役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：田村幸紀 副委員長：只野敏彦
委 員：中河つる子、鈴木孝寿、中島里司、深沼達生
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、事務局次長兼総務係長：宇都宮 学
- 5 説明員 【池田町】
議会議長：丹羽泰彦
福祉課長：岡部友博
社会福祉協議会事務局長：佐藤智彦、同介護支援係長：吉田将人
議会事務局長：永田尚志、同係長：横田大輔
- 6 議 件
(1) 所管事務調査について
・高齢者の地域見守りにについて
【池田町（福祉課）視察調査】
【池田町社会福祉協議会視察調査】
【まとめ】
(2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査について

- ・高齢者の地域見守りについて

【池田町（福祉課）視察調査】（10 : 00～10 : 57）

内容：「池田町における「高齢者の地域見守り」の取り組みについて」

池田町議会 永田事務局長司会のもと開会、池田町議会 丹羽議長の歓迎の挨拶、清水町議会厚生文教常任委員会 田村委員長の挨拶、出席者紹介の後、池田町 岡部福祉課長より、別紙資料に基づき説明を頂き、質疑応答を実施。

【池田町社会福祉協議会視察調査】（11 : 10～12 : 00）

内容：「池田町社会福祉協議会が実施する住民主体の介護予防活動の展開について」「見守り実証実験の内容について」

池田町社会福祉協議会 佐藤事務局長の説明により、「町民活動支援ルームR0C0C0 2号店」の施設見学、同会議支援係 吉田係長より、別紙資料に基づき説明を頂き、質疑応答を実施。最後に、清水町議会厚生文教常任委員会 只野副委員長の挨拶。

【まとめ】（14 : 35～14 : 59）

委員長（田村幸紀）： それでは、厚生文教常任委員会を開会する。まず、5月12日に清水町の保健福祉課と社会福祉協議会から町の状況の聞き取りを行って、今日の午前中に池田町の保健福祉課と社会福祉協議会からお話を伺ってきた。その中身について所管事務調査の報告ということで、委員会としてまとめていかなければならない。まず皆さんからその報告書の方向性というか、その中にこれだけは記載したほうがいいという、まとめのものなのであるが、それを発言いただきたいと思う。順番に発言をお願いしてもよろしいか。
それでは、まず中河委員から願います。

中河委員： 一番最後に聞いた社会福祉協議会でやっている見守りのセンサーについて、ああいうものも清水に入れていったほうがいいかなという感じを受けた。それが介護保険で使えればなお良いということである。それぞれいろいろやっていることもあったが、それと、元気なお年寄りということで、みんなが楽しく集える良い場所を使っているなという感じがした。高齢化率は大分こちらより高いようですけども、やはりそれをそれぞれの町ではいろいろそのことに対して考えて、町に対応したやり方をしているなというのを感じた。

委員長： 次、中島委員から願います。

中島委員： 実際に池田町を拝見して、この地域の見守り、社協で委託を受けてやっていたわけであるが、実証という状況の中では、先はちょっとわかりませんが、私自身は清水町と置き換えた場合に、その前に中札内村がもうすでにもう取り組んでいるという話があって聞いたがちょっと実態は分からない。ただ、町のそれぞれ地域事情というのが若干違うので、私はこういう体制、見守りについては、これから、どこの町

村もいろいろな形で取り組んでいかざるをえないだろうというふうに思っている。その形については、今たまたま池田町で見せていただいた、聞かせていただいた状況は、1つの方法としてあると思う。これからどういう形が何ていうのか、費用対効果を考えながらやらなければならないところもあるだろうと。それを考えたときには、やはり町の事情というのがあると思う。これは私が勝手に思っていることであるが、うちの町はやはり企業があって、町民全体が、会社退職になって住んでいただいている方もかなりいるが、働いている最中に交流というのはほとんどない。だから、退職してから直ぐに、池田町みたいなああいう場所に人がたくさん集まってほしいと言っても、やはりなかなか集まりづらい部分があるのかなと。それらを考えたら、この必要性は絶対これからあるというのはわかるが、形として何がいいのかは、今日伺ったうえで私自身では、これがいいのではないのかという答えはまだ出てこない。ただ、町の事情を考えてこれからやはり積極的に取り組んでいかなければならないことがあるだろうという思いもした。これ意見になってないと思うが、心境として。ただ、池田町の場合は2階が前はお店だったのが縮小して、たまたま空き家ができたという、それと人の動き、あそこに行くのにも買い物ついでとかいろいろな部分で、場所的に町に出ているわけである。だから、そういう部分では、池田町の場合は、その店が縮小されたのがラッキーと言ったら失礼なのかもわかりませんが、福祉的なほうから見たら、ラッキーだったと。これは、それぞれ町の事情の中で、積極的に良い形で取り組んだ結果だろうというふう思うので、その辺はうらやましく思っているところである。それらも含めて、今後うちの町、清水町でも、必ず積極的に取り組まなければならない問題で方向性を見誤らないでいい方法を見出していつてもらいたいなということである。以上である。

委員長：では、深沼委員、お願いします。

深沼委員：まず思っていたのは、健康寿命、これをまず伸ばすことが大切。これらはもう清水町もそういう考えではやっていると思うが、今日聞いていても、認知症という言葉が出てきた中で、やはり認知症になる前の段階から人との繋がりを持っていけるような形を作って、人との会話とか触れ合いをすることによって、少しでも認知症にかかりづらい環境を作っていくのが大事なのかなんて、そういう認知症が少しでも減れば、徘徊みたいな形の部分も減るし、元気で過ごせれば本当に今でも80歳でも90歳でも元気な人は元気なので。そうやって元気な健康づくりとか、そういった部分ができれば。病院、薬ぐらいいはもらいに行くかもしれないですけど。元気に老後を迎えるというのが、そういった手助けをしていくのが重要なのかなと思った。

委員長：では、鈴木委員、お願いします。

鈴木委員：今日の池田町役場のほうでやった資料のところ、いろいろな事業やっているというところは、うちの町とそんなに大きくは変わらないなと思っていた。ただ、この最後のページのまとめというのが1から4まであった。これが、要は行政がやるべき、やらなければならないというところ。かといって、あのときちょっと質問とか意見をしたが、行政ができる範囲というのはもう確実に決まってくるし、無尽蔵にお金があるわけではないので、要は予防の関係をしっかりやって、できるだけ多くの人に来てもらうような仕組み、または、家から出す仕組みを作りながら、やるのだと。とはいえ、どんどんと家のほうに閉じこもってしまってる方、若しくは閉じこもりがちになってしまっている方、多分それが足が悪いとか何とかというのもきつとあると思うし、そういうのには、社協でやっていたの見守りのシステムというのは本当にあればあれで有効になるかなと。まだは実証試験だし1か月しかやってないから、それをもとにやりましょうというのはちょっと変な話であるが、それを継続して見ていく必要があるなと思っている。ただ、あれも導入することによってどうなるのだろう、金銭的にはどうかと言って、また最初に戻って、行政のやれ

る範囲といったらどこなのだろうというのが、あれなのだが。ただ、前回のここでの会議のときも何回か言ったが、やはりかわいそうな亡くなり方をできるだけ減らすという部分かなと私は思っているの、それはなかなかこう表現しづらいと思うが。でも、そのために何を導入すべきか、何をすべきかというのを逆算していく必要もあるから、それもこの前、保健福祉課長以下にお話をしましたが、もともとに戻って、最初のまとめにあったように1から4までの役場がやるべきことは、多分もうこれしかないのだろうと思っている。これをしっかりと取り組んでいくというのが一番大事であると実感して、池田町もそれもやっているのだという程度かと。特筆すべきところというか、新しい発見というのは特になくて、しょうがないこうだねというのばかりだったので。それはそれでいいことだと思うが。そんな感じである。

委員長：では、只野委員、願います。

只野委員：このセンサーによる見守りというところを、今日は一番先に見に行くという感じの日だったと思うが、そこに関してはまだ実証実験ということもあり、清水に導入するという点に関しては、今後しなければならぬ時代が来るかもしれないが、ちょっと池田とか違うところを見て、その様子を見た上で判断かなと。まだ、本当に金額のこともいろいろとまだわからないことが多いので、それであるならばやはり、今清水町がやっている、今日見た池田町がやっている給食サービスという方に重点を置くと。清水の場合は500円であったが、池田は350円というふうな金額からして、利用者が利用しやすいというところもあるので、そういうところに重点を置いて考えていったほうがいいのではないかと。本当にいろいろなちょっとしたことなのだろうが、今日の2階のように1か所に集約できるようなこととか、行政サービスが本当にいい方向にいつているのではないかと。そういうところを我々も今度、考えていって町に訴えていくというところがいいのではないかと考えた。以上である。

委員長：まず、最後に私もここで発言するが、高齢者の見守り事業の目的というのは何かというところを報告のときには、まず定義はしたいなと思っている。主となる目的というのは、これまで行ってきた事業、それぞれあるのだが、健康の維持の給食のサービスとか、あと社会的な孤立を防止するとか、緊急時の対応等があるなと思って、これを全部やろうとして中途半端になるのかなと。何かに絞るべきかなというふうに考えて視察に行く前は思ったが、どれも切ることができないし、すべてをつなげなければならないなと思った。行政に提言したいこととしては、地域や町ごとに多分リスクというのは、それぞれ違うのかなと思うので、ある程度のリスクの可視化というか、この地域ではこういう問題があるからこれに対してはこういうふうに、やるべきというのはちょっと整理してみたいなと思っている。ICTの活用というのは、先ほど質問の中でもちょっとお話ししたが、あくまでも高齢者の自立を支えるためのツールとして、ICTに依存するわけではなくて補完するという点で、導入というのは、いつかは導入しなければならないそういう時代が来るっていうところも踏まえて準備はしていくというところは、提言はしたいなと思っている。ちょっとまとめにならないが、最終的な所管事務調査の報告書は皆さんの今の意見等々を踏まえて、私のほうで一度まとめさせていただいてよろしいか。なるべく早めにまとめて皆さんにお見せして、ここの強弱とか、ちょっと違うんではないかというところを含めて手直ししていただくという形で、作成させていただいて、よろしいか。

（「はい」という声あり。）

委員長：そのような形で一度作成させていただく。まとめの件は以上である。

(2) その他

委員長：それでは、議題のその他であるが、皆さんから何かあるか。

中島委員：次回の所管事務調査、次回というか、今年度中にということで…。視察先は学校を想定しており、子どもたちの事情もあるので、6月定例議会で申し入れするのか、9月定例議会で申し入れるのか。その時期を決めていただければと思う。この学校の調査に行くということをまず諮っていただいて、行くのであれば、6月で申し入れるということは、7・8月で調査を終えるということである。そういうことで、もしあれでしたら、今日ある一定の見通しつけていただければ、学校サイドにはお話しであるが、いつとは言ってきていない。わかれば早めにきっちりこちらの行動がわかればということと言っていたので、支障がなければ検討していただきたいと思う。

委員長：3月12日の厚生文教常任委員会のときに、6月から9月の間の閉会中の所管事務調査を高校振興ということで、三笠高校の視察を含めて、夏休み期間ということもあるので、そういう方向で行こうという話にはなっていたが、そのような方向でよろしいか。

(「はい」という声あり。)

委員長：ただ、日程的なもの、相手方のほうと、あと清水高校のほうも含めてどうするか。

鈴木委員：三笠市に行くのは決まりとして何を見に行くかというのをもうちょっと絞って…。行くのはもう決定するということにしつつ、相手があって超人気の場所なので普通、予約は取れないので。それと、清水高校をいきなりやってもわからないというのもあるので、それに合わせたような話をしていかなければ。特色ある高校づくりを地元としてどういうふうにできるかというようなネーミングであったら清水高校もやれるし、三笠高校へ行ったとしても1か所だけで駄目ということで、できれば複数でということ。そういうのもあるので、例えば、それを道庁にするのか、教育委員会にするのかと言うのも含めて、またやらなければならないけど…。やることは確実に決まっているのだから、どういう内容にするかはもう1回ちょっと、次までに。いずれにしても6月議会の初日やと思う。そのような感じで、ちょっとそれに合わせて、三笠高校プラスどこにするのかというのも、同じような傾向にしないともずいかなとは思うので。

事務局長（大尾智）：あまり離れた場所はあれであるが、近場でもう1か所ぐらいどこか同じように、特色ある教育をやっている高校なのか、教育委員会なのかというところを、皆さん何かアイデアをお持ちいただいて、次回、決定するという感じですか。

委員長：はい。それでは、6月議会の初日、6月12日の次の委員会までに、三笠高校に視察に行つて、それと付随して特色ある地域がらみの特色ある学校づくりとかに絡めたもう1つ視察する場所もちょっと皆さんの中でご検討いただいて、こちらでも検討して、その場で協議したいと思うが、よろしいか。

鈴木委員：見に行くところというのではなく、まずどういう内容でやるかということ三笠高校と例えば清水高校でその何をやるかによって…。ただ見に行くのではなくて、その内容が決まらないうちと。近隣町村でうちと同じぐらいの規模の町がどうやって戦っているのかというのも見なければならぬし、見てみたい。同じようにやってたら、うちと一緒にいるのかなというふうにもがいているのか

というのも、興味あるし。見ようと思えば一杯あるし、さらに先程言った道教委の話を聞いてみたいとか、たくさん出てくるのでどの辺でこう絞っていくかとか、次回の6月12日までに決めて、軸は三笠高校にしてというやり方にしようがいいと思う。

中河委員：今なんか高校授業料が無償になったということで、公立の学校と私立の学校でまた問題がちょっと違うふうになってきた。公立が定員割れするのではないかとということで、そこも含めるとまたちょっと違う。今までとは。そこをどういうふうに見ていくかちょっとわからないが、新たな問題が出てくるなという感じがする。

委員長：それでは、高校の無償化の話も含めて、清水高校にどういうふうに影響を与えられる視察になるかという部分を軸に、ちょっと皆さんで一度持ち寄って検討したいと思う。よろしく願います。
では、他にございませんか。

(「ありません」という声あり。)

委員長：事務局からもありますか。

事務局長：ありません。

委員長：それでは、本日の厚生文教常任委員会を閉会する。お疲れ様でした。

【閉会 14：59】